

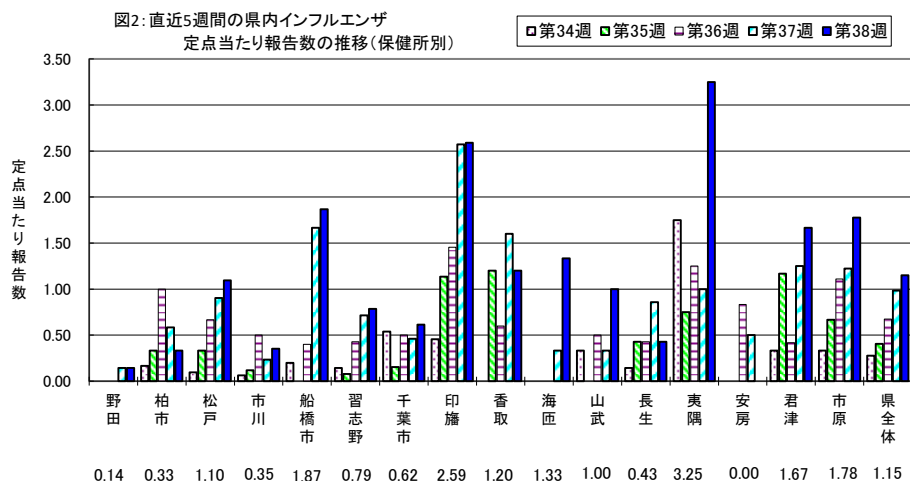
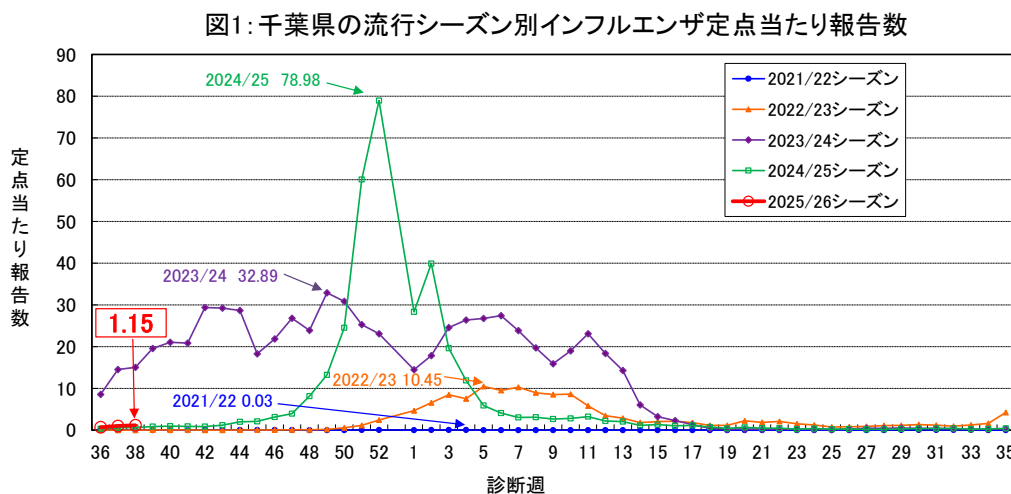
【今週の注目疾患】

《インフルエンザ》

2025 年第 38 週(9 月 15 日～21 日)における定点当たり報告数は 1.15 となり、流行開始の目安とされている 1.00 を上回りました¹⁾(図 1)。

今後、更なるインフルエンザ患者数の増加が見込まれるため、こまめな手洗いや咳エチケット、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、室内では適度な換気や湿度の保持を心がけるとともに、予防接種を受けることを検討しましょう^{1,2)}。

第 38 週における定点当たり報告数は、前週の 0.98（人）から増加して 1.15（人）となった。特に、夷隅、印旛、船橋市保健所管内が多くなっていた（図 2）。



年齢群別では、10 歳未満が 93 例（43.7%）と最も多く、次いで 10 代が 50 例（内訳は、10～14 歳が 22 例、15～19 歳が 28 例、合わせて 23.5%）、30 代及び 40 代が各 18 例（各 8.5%）と続いた。

より重症な症例数の推移を反映する県内 9 か所の基幹定点医療機関からの入院患者報告数は、1 例（前週 0 例）であった。

また、定点医療機関の任意の協力により集計している迅速診断の結果では、178 例中 166 例(93.3%)が A 型であった。

2025 年第 36 週には、県内の小学校において 2025/26 シーズン（2025 年第 36 週から 2026 年第 35 週までの期間）初となるインフルエンザ（インフルエンザ様疾患を含む）の集団発生による学級閉鎖の報告があり、その後も県内の複数の施設で学級閉鎖が散見されている^{3,4)}。

インフルエンザはインフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気である。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴であるほか、普通の風邪と同じように、咽頭痛、鼻汁、咳等の症状も見られる。小児ではまれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫力が低下している患者の場合には肺炎を伴うなど重症化する危険性が高い。

予防するための有効な方法としては、(1)こまめな手洗いや咳エチケット、(2)適度な湿度の保持、(3)十分な休養とバランスの取れた栄養摂取、(4)人混みや繁華街への外出を控える、(5)室内ではこまめに換気をする、(6)ワクチン接種、が挙げられる^{1,2)}。

咳エチケットについて^{1,2)}

県では、「咳エチケット」を推奨しています。

- (1) 咳・くしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。
- (2) マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕などで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて 1 メートル以上離れましょう。
- (3) 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めたときはすぐに洗いましょう。
- (4) 咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。

■参考・引用

- 1) 千葉県健康福祉部疾病対策課：インフルエンザの流行について（令和 7 年 9 月 24 日）
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2025/infulu-0924.html>
- 2) 千葉県健康福祉部疾病対策課：インフルエンザから身を守ろう
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/influenza/influenza-yobou.html>
- 3) 千葉県健康福祉部疾病対策課：インフルエンザ様疾患による学級閉鎖について（令和 7 年 9 月 5 日）
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2025/250905influenza.html>
- 4) 厚生労働省：2025 年 9 月 19 日インフルエンザの発生状況について
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou01/houdou_00023.html